

最優秀賞

地球の心

人の体の約六十パーセントは水できている。そんなことを聞いたことがある人は少なくないだろう。では、その六十パーセントとはどういう意味だろうか。正解は重さだ。だが水は、人の体の中にだけ存在するのではない。水は人の心の中にも存在するのだ。

私は、身曾岐神社に能楽殿があることを知って興味を持ち、先日訪ねた。身曾岐神社は私の住む埼玉県の隣、山梨県の北西部に位置する。そこには、目を見張る美しい光景が待っていた。冬でも力強く立っている木々、水の上に立つ壮大で優雅な能楽殿。その景色の他にも御神水拝受という場所があった。神水には神聖な水という意味がある。これは水が大切にされている証である。

私は普段神社に行く時は、氷川神社に行くことが多い。そこには「払いの川」というものがある。神社の名前にも「川」が含まれている。川は水の流れた。

そして私は気付いた。神社には手水舎があり、貴族の庭園には池がある。文化は水の賜物なのだ。水は、文化として人の心に影響を与えている。大きな影響を。

だが、水が心へ与える影響は、良い面だけではないことを忘れてはいけない。氷川神社などが祀るスサノオノミコトは嵐と海の神であり、水害を司る。水害は人の心に大きな影を落とした。氷川神社の例で言うならば荒川の氾濫だ。荒川は台風や大雨によってよく氾濫を起こし、埼玉県や東京都に大きな被害をもたらした。その被害を防ぐために今では荒川放水路が存在する。先人たちの努力のおかげで、私たちの暮らしは守られている。それは、埼玉県だけではなく、日本全国でも言える。

そして今、人の生活、心として存在する水が、汚されているのだ。どこへ行っても、川や海、湖はゴミ箱として使われている。私の通学路ではいくつ川が見える。どの川も小さいが、例外なく。ペットボトルや空き缶

開智中学校 三年 石田 輪

が落ちている。初めはあまり気にしていなかったが、マイクロプラスチックや水質汚濁のことを知ってから、自分ごととして考えるようになった。そして、山に遊びに行つて川の上流のきれいなさを見るだけで、汚れた川のことを連想してしまうことさえある。

この問題は、日本だけのものではない。

世界一長いナイル川も、世界一流域面積の広いアマゾン川も、深刻なゴミ問題を抱えている。川が汚れることで、海が汚れる。海洋プラスチックゴミは、今では一億五千万トン以上存在すると言われている。

二〇五〇年には、海洋ゴミの総重量が魚の総重量を超えられると言われている。このままでは、美しい海を見ることができなくなる日が来る。世界には美しい海の絵が多くある。その絵が過去の物となってしまう日が来ることを、私たちは避けなければならない。

些細なことが川を汚す。ポイ捨てしたゴミが風で川まで飛んでいくこともある。そのことも忘れてはいけない。

地球に住む人の体であり、心であり、生活であり、時に水害を起こしてきた水は、汚れている。水の歴史が、大きな転換点を迎えようとしている。一人ひとりが積み重ねられた水の歴史を理解し、水を守る取り組みが大切だ。ボランティアで海岸の清掃をしている人たちに全てを任せるのではなく、全人類が自覚を持つ必要があるのだ。

私も、皿の油汚れを拭き取ったり、落ちているゴミを積極的に拾ったりするなど、地球が美しくなるようお願いしながら、気を遣うようになった。一人の活動が少しずつ広がって、世界中に届くことを祈って。未来の水が、きれいであることを祈って。